

特集：国際ガラスデータベース INTERGLAD のバージョン・アップ

INTERGLAD

国際ガラスデータベース増強版の完成にあたって

社団法人ニューガラスフォーラム会長
日本電気硝子株式会社取締役社長

岸田 清作



世界のニューガラス産業の発展に役立ちたいということで、平成3年4月にサービスを始めました国際ガラスデータベースはお陰をもちまして内外の利用者の強いご支援を頂いたことから、直ちに増強版の構築に取り掛かりました。

今までのデータベースは主として1979年から1988年までに発表されたガラスのデータを対象に約10万件のデータを収録致しておりますが、ガラスの研究開発は日進月歩で新しいデータが次々に発表されております。今回この10月に発表致します増強版のデータベースには1989年から1990年の間に発表された新しいデータ約1.6万件を追加しており、収録データ数の合計は約11.6万件に達しており、またユーザの皆様からご指摘頂きました誤りも出来るかぎり訂正させて頂きました。

冒頭にも述べましたようにこの国際ガラスデータベースは世界のユーザを対象としており、用語は英語を使い、使用できるパソコンも日本の代表的な機種であるNEC98シリーズとともに国際的に広く使用されているIBMPS/2もサポートしようという遠大な計画で、当フォーラムの力でユーザの皆様のお役に立つものが作れるのか一抹の不安を抱いておりました。しかし、結果は案ずるより産むが安しの諺どおり利用者からはユーザーフレンドリーであるとか、随所に独創的な工夫が施されているといったお誉めの言葉を頂き、当初の不安は全くの杞憂に終わりました。このデータベースのシステムにはパソコンとコンパクトディスクを組み合わせたといったハイテクシステムを使用していることから、私どもがユーザーの所に直接お伺いして説明申し上げなければならない場合が多いのではないかと考えておりました。ところが実際にはマニュアルのみでご利用いただいた方が大部分で、全くの幸運というほかありませんでした。

これは丁度このデータベースの発売を開始した時期がパソコンとコンパクトディスクを組み合わせたシステムが普及し始めた時期に一致し、ユーザーの皆様がこのシステムについて十分な知識を持っておられ

たことも幸い致しました。

このデータベースの周辺技術であるパソコンやコンパクトディスクにおいてはダウンサイジングとコンパクト化、さらに記憶容量の飛躍的な拡大と技術革新の最中にあり、コンパクトディスクの記憶容量の制約からガラスデータとして重要な図形データ収録を見送っておりましたが、次回にはこうした事情も考慮に入れた抜本的な再検討が必要であると考えております。

終わりにになりましたが、初版に続き今回の増強版の構築にあたっては懇切なご支援をいただいた通商産業省始め関係の方々並びにユーザーの皆様方の暖かいご支援に深く感謝申し上げます。

INTERGLAD の使い心地



東京大学生産技術研究所 安井 至

1991年4月にINTERGLADがリリースされてから、すでに、2年以上が経過した。この2年間、我々の研究室でどのような使われ方がされてきたかを簡単に記述し、あわせて新バージョンへの今後の期待などを書いてみたい。

我々の研究室では、どうも次の4種類の使い方がなされているようだ。それぞれについて、若干説明をしてみよう。

1. 研究を開始する際の基礎データの収録

化学屋が何か新しい研究を始めようとするときには、「ケミアブ (Chemical Abstracts) を引いて過去何年かの文献を漁ること」が最初の作業であった。しかし、当研究室では、この2年ほどで、少なくともガラス関係の研究を始める学生がまずやる仕事が変わってしまった。それは、CD-ROMをメディアとするデータベースが2種類ほど導入されたからである。勿論、一つはINTERGLADであり、他の一つは、アメリカセラミックス協会が発行しているCeramic Abstracts CD-ROM Versionである。何か新しいガラス系の検討を始めようとするとき、INTERGLADと

数時間戯れているうちに、そのガラス系がどのようなもので、どの程度の歴史があり、どの程度の研究がなされているかなどといった感触が伝わってくる。そこで、必要なデータをフロッピーディスクに落としておけば、これは、研究がある程度進んでからも再び役に立つ。(もう一方のCeramics Abstractsは、IBM系のパソコンでなければ動作しないが、検索ソフトは非常に洗練されたもので、また、検索速度も結構速いので感心してしまう。データベースの構造が、INTERGLADとは本質的に異なるが、将来は同じ様な検索方式を指向しなくてはならないかも知れない。このように、今やINTERGLADは、新しい研究を始めるときの必須アイテムになっている。特に、Ceramics Abstractsとの組み合わせは無敵コンビである。

2. 商品化されているガラスの確認

あるガラス組成が商品として売られているかどうかを知りたくなることがある。最近出会った例では、イオン交換用のガラスが日本で市販されているかどうか、また、そのガラスの組成はどのよ